

平成28年度第1回学校マネジメントフォーラム

# 学校事務職員が共同実施をツールとして どんな学校経営参画ができるか

・・・教育業務改善に取り組む元気な学校事務職員を目指して・・・



遠野市教育委員会

# 遠野市の概要



人口 約 28,400人  
面積 約 826km<sup>2</sup>

## 市教育目標

**知・徳・体のバランスのとれた人間育成**  
～ふるさと遠野や日本、世界の発展に貢献する人材の育成～

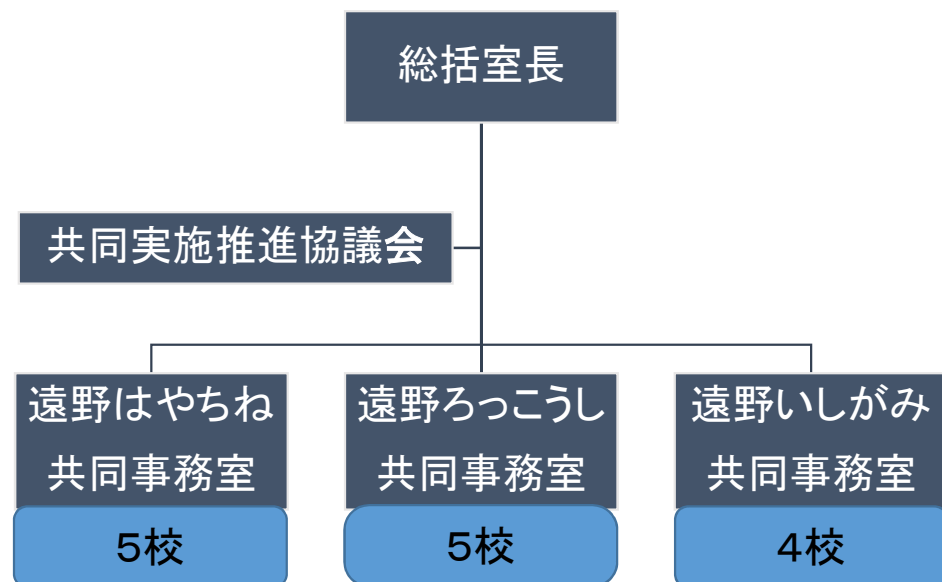
学校数	小学校	11校
	中学校	3校
生徒数	小学校	1,251人
	中学校	678人
教職員数		247人
(学校事務職員		14人)



「遠野物語」  
永遠の日本の  
ふるさと

東日本大震災  
被災地後方支援  
の拠点

# 共同実施の概要



## 業務内容

- 県費諸手当の認定・確認事務  
年間約1020件
- 教育業務改善の取り組み
- 学校事務WEB様式集「遠野ずもな」  
の作成更新
- 通信「つながる」の発行

○平成18年度から共同実施開始

○同一会場で3つの共同事務室班が処理  
**全員で情報共有しやすい**

## 毎回教育委員会との情報交換実施

○おおむね月1回、半日開催 年14回参集

○諸手当認定権は28年度から各室長に委譲

○共同実施推進協議会を11月と2月に実施

**参加者は、教育委員会各課長、校長会代表、副校長会代表、各事務室長**

○総括室長は、各室長の中から市教委が指名

## 組織の総括と委員会との調整役

# これまで取り組んだ業務改善事項

## (ア) 着任届の廃止

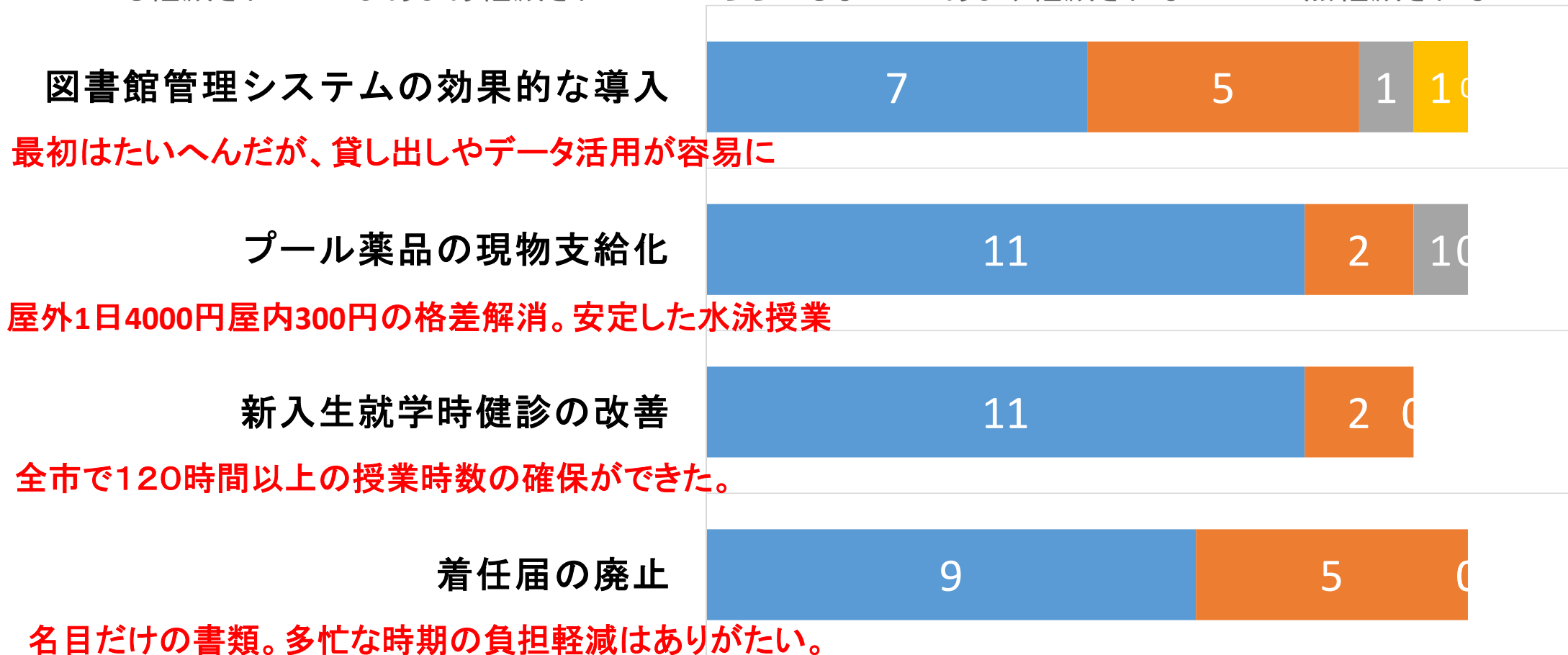
- (イ) 勤務記録月報の廃止の確認
- (ウ) 授業日と休業日の振替届の簡略化
- (エ) 勤務時間変更申請の簡略化
- (オ) 特別活動承認申請の簡略化
- (カ) 私用車の使用承認簿の廃止
- (キ) 職務専念義務免除の学校長承認の拡大
- (ク) 就学援助事務の改善
- (ケ) 新入学児童名簿様式や異動通知書の改善
- (コ) 教務関係書類様式の一部提示

## (サ) 市財務規則物品分類基準の改正

- (シ) 就学時健診の改善
- (ス) 文書送達の一部実施
- (セ) 共同実施へのPC等貸与
- (ソ) 学校日誌のPC作成容認
- (タ) プール薬品の現物支給化
- (チ) 学校安全互助会費の周知文書配布
- (ツ) スクールバス担当者会議の開催
- (テ) 図書館管理システムの効果的な導入
- (ト) 超過勤務記録簿の廃止

# 学校・教師の負担軽減効果（副校長からの回答・数字は学校数）

■ とても軽減された ■ まあまあ軽減された ■ どちらでもない ■ あまり軽減されない ■ 全然軽減されない



# 遠野の業務改善の変遷

**発見** 業務改善は遠野の強みだ！

環境分析

H 2 6 →

H 2 3 →

H 1 8 →

<p>視点</p>	<p>規則改正を伴う業務の廃止効率化 事務の視点</p>	<p>身近な学校課題に取り組む 校長会、副校長会に出向いて説明、コーディネーターの役割</p>	<p>経営参画を意識して取り組む 学校から課題を挙げてもらう(ニーズの把握) 広報発行(説明責任)</p>
<p>改善例</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着任届の廃止</li> <li>・勤務時間変更届の簡略化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学時健診の改善</li> <li>・プール薬品の現物支給化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館管理システムの効果的導入</li> </ul>

# 遠野市教育委員会との関係

学校と市教委とが互いに信頼し  
リスペクトしあえる良好な関係

- ・ 市のモットー「子育てするなら遠野」
- ・ 学校は地域資源の『人』づくりをする重要な存在
- ・ 学校の声に応えようとする遠野市教育委員会の土壌
- ・ 市教委との交渉窓口は共同実施推進協議会に集約



# 遠野の共同実施はこんな取り組みをしていきたい

誰のために

それぞれの学校が良くなるために

創造は難しい

全体交流で得た先行実践例をアレンジ

“見える化”

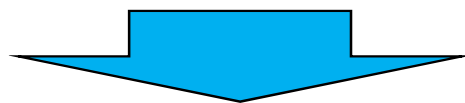
成果を明確にする・情報共有する

自らやる姿勢

自分たちから提言しつなげていく

身につける

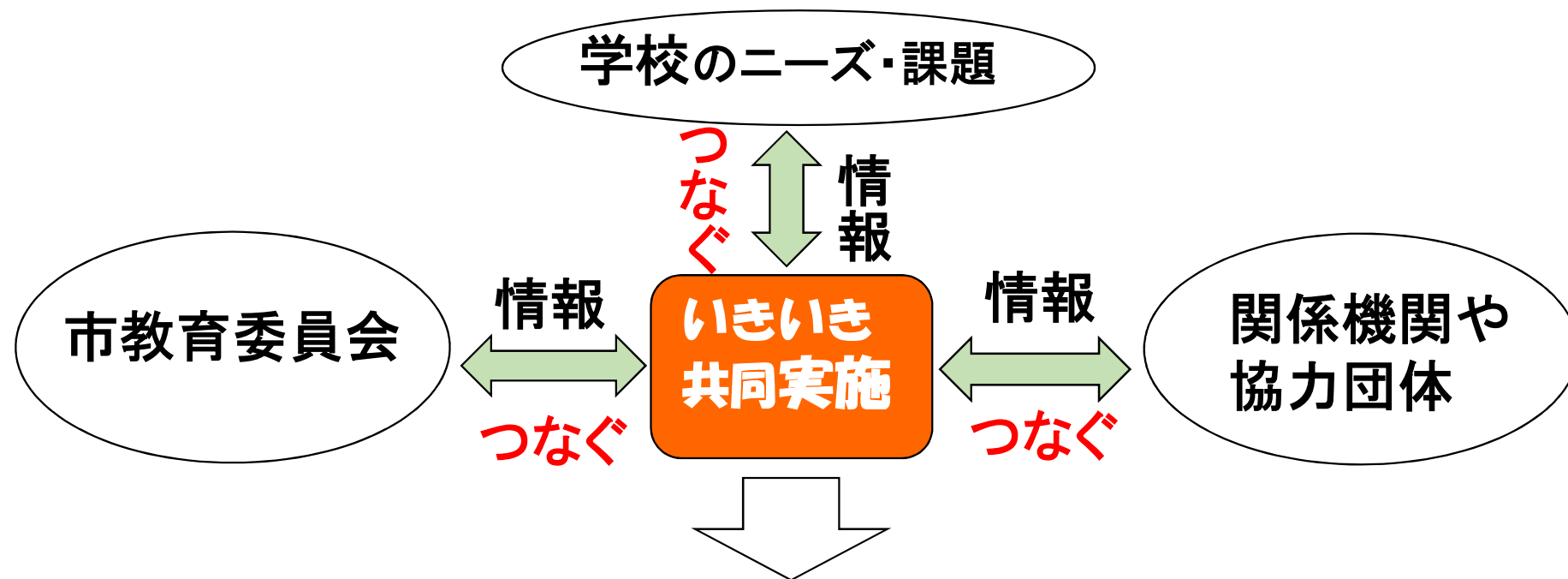
共同実施での実践的体験で人材育成



環境・条件に適合させた遠野ならではの経営参画



# 私たちの目指す共同実施



みんなの力で業務改善・経営参画

成功体験が人材育成になる

# 経営参画の手順

## R 改善したいことの洗い出し(情報の共有、思いの共有)

- ・校長会に取り組みの協力依頼
- ・事務職員が経営参画について研修
- ・各校から経営課題を集める ⇒ 多方面の課題が集まった

## P 共同実施で「なぜ」「何を」「どのように」検討 (思いの共有、行動の共有)

## D 課題解決に向けての取り組み 情報をつなぐ・働きかける(行動の共有)

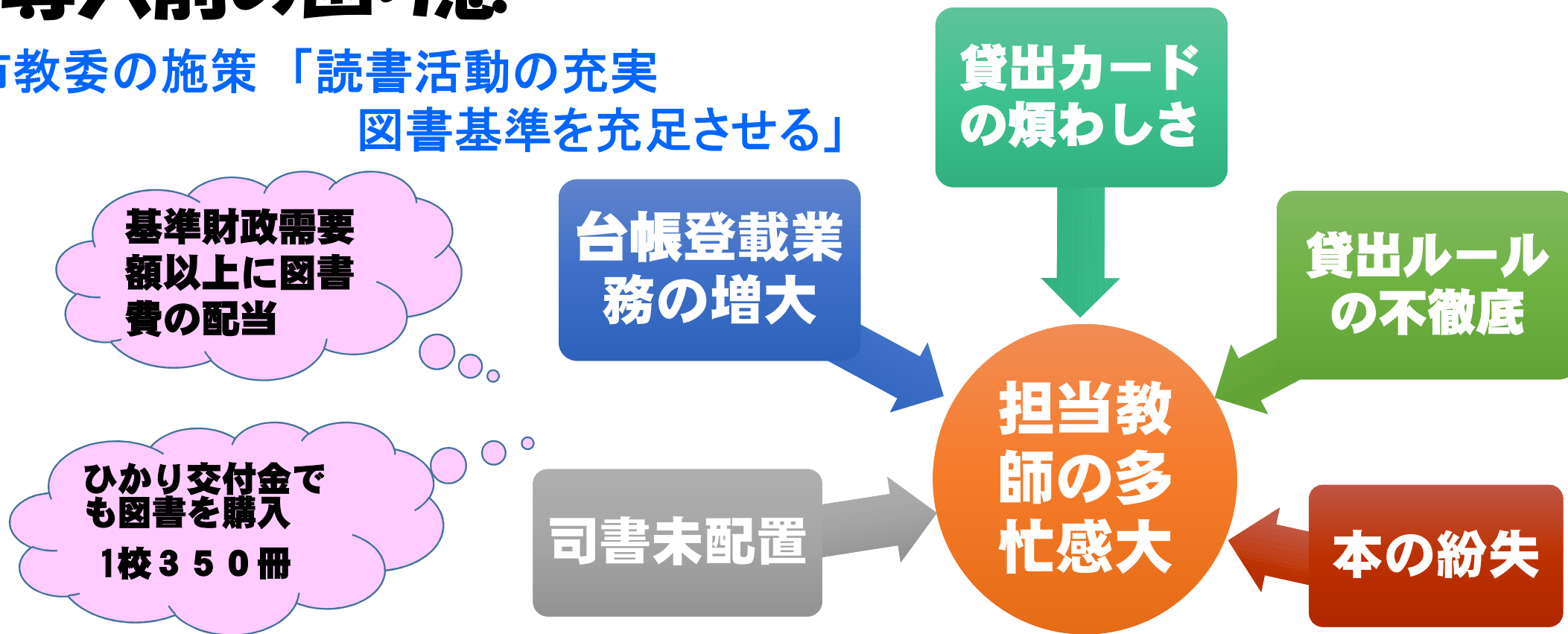
## C 校長会、副校長会へ経過説明

## A 共同実施推進協議会への提言

## A 共同実施通信を発行

# 導入前の困り感

市教委の施策「読書活動の充実  
図書基準を充足させる」



学校から出された最初の課題

「図書館管理システムの導入時、臨時職員の配置をお願いしたい」

# 課題解決に向けての検討

## 最初の課題

- 「図書館管理システムの導入時、臨時職員の配置をお願いしたい」
- 市教委は難色を示す。導入自体が危ぶまれる。

## 共同実施の動き

- 共同実施はあきらめずに情報を集めて検討した。
- まず自分たちが図書館管理システムについて学んだ。

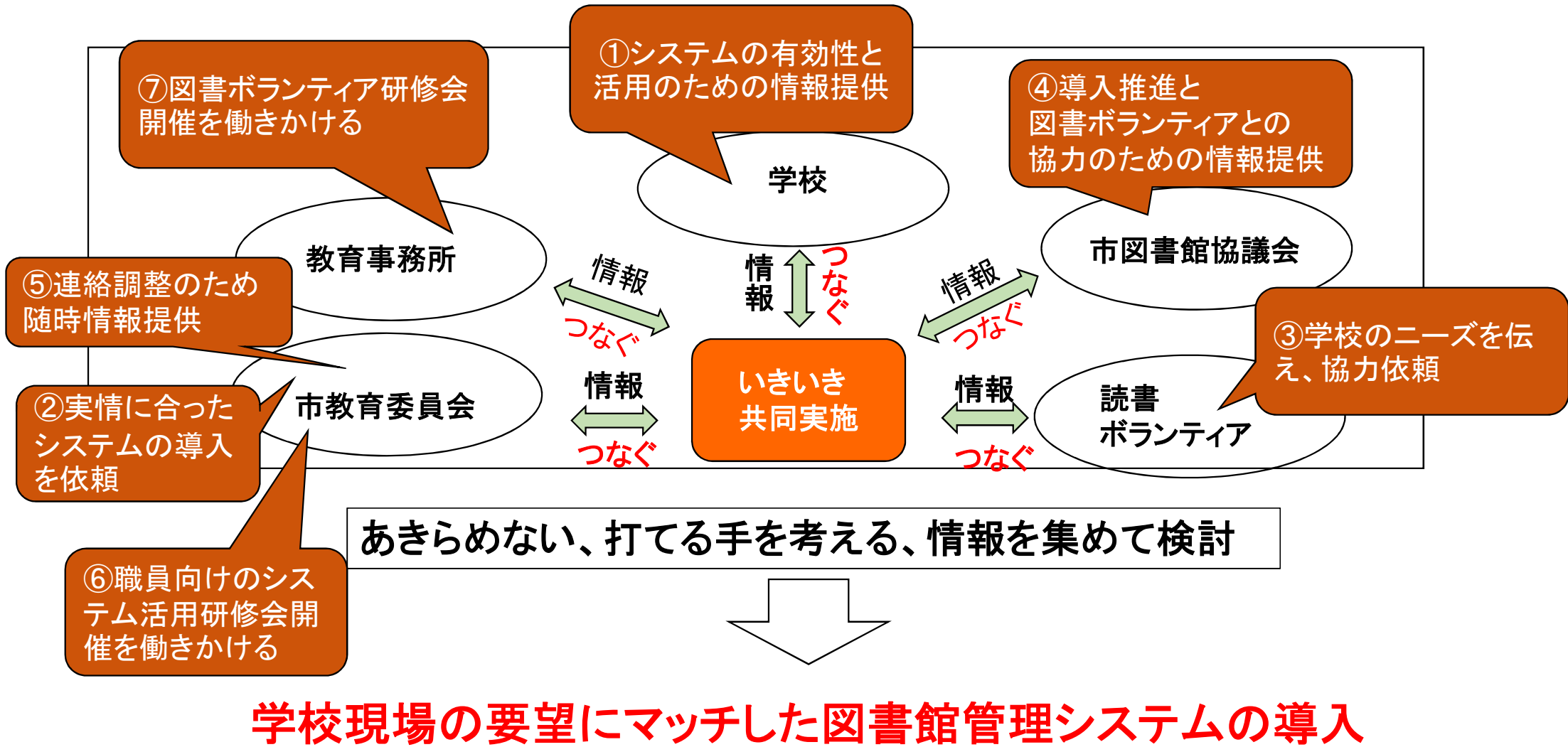
## 置き換えた課題

- 「学校図書館管理システムの効果的な導入はどうあればよいか」
- 有効性を情報提供。各方面に働きかける。

## 結果

- 全小学校に図書管理システム導入。
- 市教育委員会主催でシステム研修会実施。
- H28 市内全校でシステム稼働。

# 新課題 「図書館管理システムの効果的な導入はどうあればよいか」



# システム導入後 こんなことが変わった その1

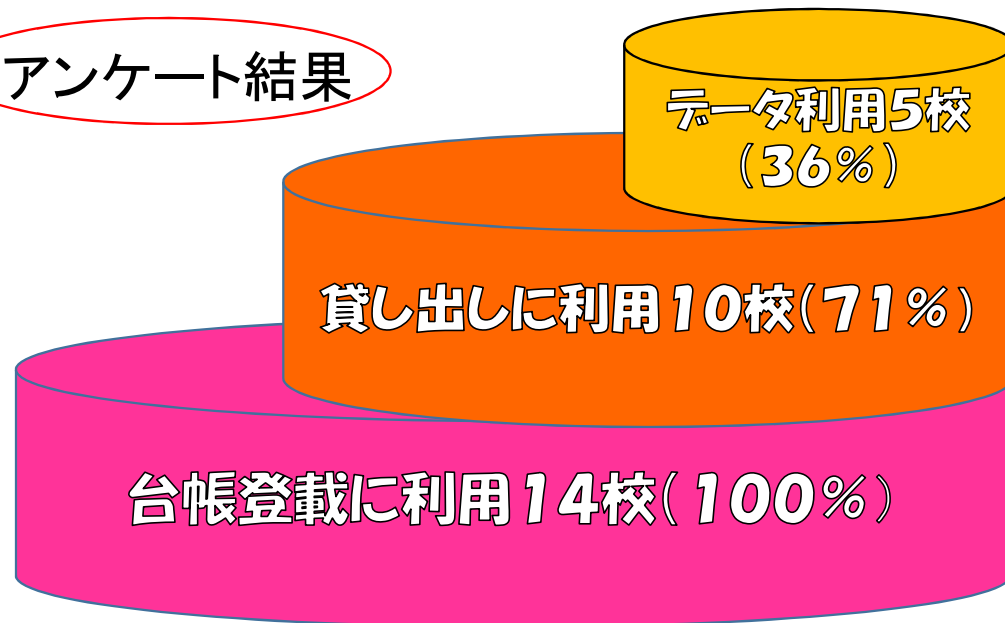
27年度 各校で図書データベースづくりを行った。

本を選別廃棄処理(全体で約5,000冊廃棄)

蔵書(全体で約83,000冊)にバーコードシールを貼ってシステム登載

28年度 全校でシステム稼働 図書担当教員にアンケート調査を行う

アンケート結果



- 本の整理ができた 7校
- 本の貸し出しが楽になった6校
- 台帳登載が楽になった 6校
- 本の紛失が減った 4校
- 未返却者が減った 1校
- 来館者が増えた 1校

# システム導入後 こんなことが変わった その2

## システムのデータを利用した指導例

- ① 多読賞のリストアップ
- ② 個々の児童の冊数リストを作成し担任に提供、読書への関心意欲向上
- ③ 未返却リストを使った返却指導
- ④ 図書館利用のルールについて指導の徹底に繋がった
- ⑤ 個人やクラスの貸し出し数調査に利用
- ⑥ 人気本リスト、多読賞リストを利用し図書祭を計画、委員会活動の活性化



# システム導入後 こんなことが変わった その3

## 新たな仕組みづくり

- ① 貸し出しのルールが変わった 7校
- ② システム登載のマニュアルを作った 2校
- ③ 貸し出しのマニュアルを作った 3校
- ④ 新しい廃棄基準を作った 1校

H28.3. 31現在

- 図書標準達成率  
遠野市小学校 94.1%  
遠野市中学校 82.1%
- 一人当たりの蔵書数  
小学校国の基準18冊  
⇒遠野市49冊  
中学校国の基準28冊  
⇒遠野市33冊



## 読書ボランティアとの連携

- ① 台帳登載に3校のボランティアが協力
- ② 現在5校で21人のボランティアがシステム操作
- ③ 横の連携、市ボランティアネットワークを立ち上げた



# 共同実施の業務改善の推進で得たもの

- メンバーに動いてもらう事と結果を評価する事 ➡ **組織の活性化**
- 成功体験が自己有用感を高め、意欲向上につながる ➡ **人材育成**
- 共同実施のコーディネーター ➡ 大いなる**可能性**
- 地域教育課題の解決 ➡ **地域学校事務室**のような機能
- 改善のエネルギー源 ➡ 子どもの笑顔、現場だからこそ見える課題



# 業務改善のゆく手を阻むもの(遠野市の場合)

○一番の障害は、  
学校事務職員自身の心の垣根

☆自分が動けば周りが動く

☆今こそ一歩踏み出す勇気を

まとめ

「学校事務職員が共同実施をツールとして  
どんな学校経営参画ができるか」

**1、みんなの力で業務改善**

**2、情報をつないで活かして経営参画**

**3、共同実施の活性化で人材育成**

☆ご静聴ありがとうございました☆